

## 第13回協働実践研究会&科研報告会 報告

2017年12月2日(土)、早稲田大学22号館201教室・206教室・207教室にて、第13回協働実践研究会&科研報告会が開催されました。今回は午前、平成26～29年度科研費補助金基盤研究(B)「学びの関係性構築をめざした「対話型教師研修」の研究」の成果報告会が、また、午後からポスター発表及びパネルディスカッション「日本語教師の専門性を考える」が行われました。参加者は112名で対話型教師研修や日本語教師の専門性への関心の高さがうかがえました。

### ◆科研報告会(10:30～11:30 201教室)

平成26～29年度科研費補助金基盤研究(B)(課題番号:26284073)

「学びの関係性構築をめざした「対話型教師研修」の研究」成果報告

① 舘岡洋子(早稲田大学)

「「学びの関係性構築をめざした対話型教師研修の研究」の趣旨説明」

② 池田玲子(鳥取大学)・岩田夏穂(東京大学)

「アジアでの対話型教師研修の広がりー海外アジア現地での実践研究の場作りー」

③ 金孝卿(大阪大学)・トンプソン美恵子(早稲田大学)

「ティーチング・ポートフォリオの枠組みを媒介にした対話型教師研修の実践」

④ 近藤彩(麗澤大学)

「企業研修を行うための教師研修ー異業種の協働を通じてー」

⑤ 羅曉勤(台湾銘傳大学)・荒井智子(同)

「台湾協働実践研究会報告～参加メンバーから見た対話型教師勉強会の意義～」

⑥ 駒澤千鶴(国際関係学院)・菅田陽平(北京大学大学院生)・朱桂榮(北京外国語大学日本学研究センター)

「北京協働実践研究会報告」

科研報告会では、代表者(舘岡)から本プロジェクトの趣旨説明があり、分担者たちからアジア各地でのプラットフォームの広がりについて、また、台湾や北京の協働実践研究会の活動について報告がありました。また、ビジネスのフィールドへも広がっていることや、対話型教師研修の内省ツールとしてのティーチング・ポートフォリオの活動の紹介もありました。



◆ポスター発表 前半 (12:40~13:55) 201 教室・206 教室・207 教室

- ①古屋憲章 (早稲田大学大学院生)・古賀万紀子 (同)・孫雪嬌 (同)・小畑美奈恵 (同)・栗田佳奈 (同)・平山智之 (同)・平田佑和 (同)・津崎千尋 (同)・館岡洋子 (早稲田大学)  
「日本語教師の役割とあり方をめぐる言説の変遷  
—日本語教師の専門性を考える—」
- ②小畑美奈恵 (早稲田大学大学院生)・栗田佳奈 (同)  
「「教える」人としての日本語教師—日本語教師の専門性を考える (1) —」
- ③孫雪嬌 (早稲田大学大学院生)・津崎千尋 (同)  
「「学習者の自律性を促す」人としての日本語教師  
—日本語教師の専門性を考える (2) —」
- ④古賀万紀子 (早稲田大学大学院生)・平田佑和 (同)・平山智之 (同)  
「人と人をつなぐ教育実践をデザインする」人としての日本語教師  
—日本語教師の専門性を考える (3) —」
- ⑤古屋憲章 (早稲田大学大学院生)  
「教育実践を行うための環境・システムを整える」人としての日本語教師  
—日本語教師の専門性を考える (4) —」
- ⑥広瀬和佳子 (神田外語大学)  
「ピア・レスポンス論文にみる日本語教師の実践評価観」
- ⑦香月裕介 (神戸学院大学)  
「学生個人とクラスを同時に見る」日本語教師の実践  
—教師の語りの現象学的分析—」
- ⑧張瑜珊 ((台湾)東海大学)  
「日本語教育実習生はどのように「教師」になっていくか  
—教育日誌から彼らの視点と授業担当教師のふり返りから探る—」
- ⑨重信三和子 (武蔵野大学)  
「日本語教師は何をするのか?—私の日本語教育観の変容と課題—」
- ⑩後藤美和子 (城西国際大学)  
「持続可能性日本語教育における実習性の学び—「内戦」に関する認識の変容—」
- ⑪萬浪絵理 (千葉市国際交流協会)・西山陽子 (横浜国立大学)  
「多文化共生のための日本語教育において日本語教師は何ができるか  
—ホスト社会に働きかけるという役割—」
- ⑫萩原秀樹 (インターカルト日本語学校)  
「自殺に焦点化した日本語授業の実践が導く可能性と課題  
—教師の不安が確信に変わるプロセスを通して—」

◆ポスター発表 後半 (14:05~15:20) 201 教室・206 教室・207 教室

⑬木村かおり (早稲田大学)

「マレーシアの日本語教師たちが学び合うためには何が必要か

ー協働実践研究会クアラルンプール (KL) 活動事例からー

⑭片山恵 (早稲田大学)

「日本語教師のアドボカシーとは何かーアメリカの中等教育現場で見たものー」

⑮瀬尾匡輝 (茨城大学)

「グローバルな実践の再構築ー海外で働く日本語教師のケース・スタディから」

⑯駒澤千鶴 (国際関係学院)・菅田陽平 (北京大学大学院生)・

朱桂栄 (北京外国語大学北京日本学研究中心)

「「体験を基礎とする活動」という視点から考える「協働型教師コミュニティ」とは」

⑰フロリンダ・アンパロ A. パルマ ヒル (東京外国語大学)・

桑野幸子 (元国際交流基金マニラ日本文化センター)

「教師の成長を促す教師研修 “LEAD”ーフィリピンの日本語教師研修の実践ー」

⑱スニーラット・ニャンジャローンスック (タマサート大学)

「基礎日本語ライティングの授業における母語話者教師と非母語話者教師の協働」

⑲松尾憲暁 (名古屋大学)・香月裕介 (神戸学院大学)

「日本人教師の役割分担に対する意識の変容を促す要因

ータイの高校で働いた TA のインタビューよりー」

⑳山田美保 (名古屋外国語大学大学院)

「台湾の大学生の日本語教師観ー教師と学習者の関係性に着目してー」

㉑設楽依里 (早稲田大学大学院日本語教育研究科 2017 年 9 月修了生)

「教師が学び続けていくためにできることとはー「学習者」を通して

「日本語教師である自分」を見ることから得た学びとそのプロセスー」

㉒近藤彩 (麗澤大学)・龔雪・多田苗美・龔詩棋 (麗澤大学大学院生)

「日本語教育学を専攻とする大学院生の学びの様相ー内省のもたらす意味ー」

㉓中山英治 (大阪産業大学)・高橋雅子 (早稲田大学)

「日本語教師間の協働を促進するツールの開発

ー「協働授業の検証シート」と「協働ルーブリック」の試作を目指してー」

㉔トンプソン美恵子 (早稲田大学)・高橋美紀・マノバン＝アモンラット (コンケン大学)

「チームティーチングをふり返る KPT ワークショップの試み

ーワークショップ運営教員による内省ー」

「協働実践研究会」は例年、幅広く協働にかかわる実践や研究をテーマとして発表募集をしてきましたが、今回はパネルディスカッションのテーマ「日本語教師の専門性」と関連して、ポスター発表のテーマを「日本語教師に関するもの」にかぎりました。今回のポスター発表は、3会場において、前半、後半あわせて 24 の発表が行われました。日本語教師の専門性や教師研修、教師の協働、教師の学びなど、教師に関する発表が行われ参加者間で活発な議論が交わされました。

発表を通じて、異なる実践の場にいる日本語教師たちは、それぞれの教師役割を務めながら自分自身の専門性を認識し、日々の任務を追究していく姿が感じられました。今回のポスター発表には国内の日本語教師だけでなく、海外の日本語教師をテーマとしたものもあり、日本語教師の専門性や教師間の協働、教師のありかたなどについて深まりと広がりのある議論が交わされることとなりました。



◆パネルディスカッション (15:40~17:55) 201 教室

「日本語教師の専門性を考える」

企画者：舘岡洋子（早稲田大）

パネリスト：神吉宇一（武蔵野大学）

金孝卿（大阪大学）

近藤有美（名古屋外国語大学）

増田麻美子（文化庁国語課）

司会者：古屋憲章

●舘岡洋子（早稲田大学）

「日本語教師の専門性」を考えるにあたって—専門性の三位一体モデル—

●神吉宇一（武蔵野大学）

「フィールドプレイヤー」とならない日本語教育専門家の役割

—2つのアドバイザー事例から—

●金孝卿（大阪大学）

「自分のあり方を語ることばの資源をつくる

—日本語を学ぶこと・その学びを支援することの意義—

●近藤有美（名古屋外国語大学）

「フィールド（教育現場）で培われる日本語教師の専門性

—複雑で不確実で独自性に富んだフィールドからの学び—

●パネリスト：増田麻美子（文化庁国語課）

「日本語教師の養成・研修とキャリアパス

—「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」報告策定に向けて—

パネルディスカッションでは、日本語教師の専門性をめぐって、企画の趣旨が説明された後、4名のパネリストたちから、①日本語教師の専門性に関する主張、②その根拠となる自身の実践事例 が語られました。パネリストそれぞれのフィールドの違いや教育観の違いから、専門性のとらえ方にも多様性が示され、多角的な観点から検討することができました。また、今の時代だからこそ日本語教師の仕事が広がっているという現状から、なんでもやらなければならないのか、といった疑問も呈されました。専門性のとらえ方がそれぞれ異なり、いくつもの論点があることが明らかとなり、それぞれの議論をもっと時間をかけてすり合わせ、深めていく必要性も感じました。



#### ◆懇親会

研究会終了後、18：30からは早稲田大学22号館3階ラウンジWILLにて、40名の参加者による懇親会が行われました。協働実践研究会の会員の方々、また非会員の方々もたくさんお越しいただき、おいしい料理を食べながら日本語教師の専門性について再度熱い議論を交わしたり、近況を話し合ったり、飲み物を片手に談笑しながら楽しく交流する場となりました。

(文責：津崎千尋、池田玲子、館岡洋子)

